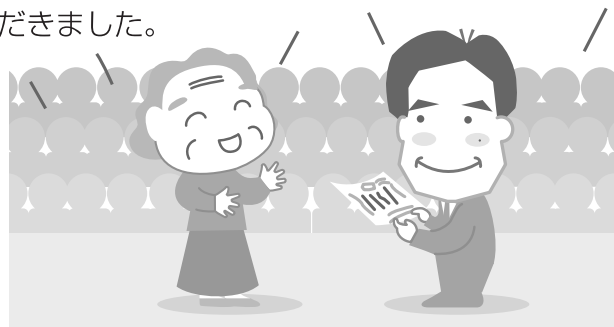


高齢者の皆さん には安心を！

長寿をみんなでお祝い！ がんばる高齢者を応援！

これまでも敬老会が各地で開催されてきましたが、倉田哲郎市長は、さらに長寿をみんなで喜び気持ちを大切に、地域で活躍する元気な高齢者をたたえる「高齢者表彰制度」をスタートしました。また、市議会とタッグを組んで、老人クラブ連合会の健康づくり運動を応援するため、地域ごとの高齢者の健康づくり教室の予算を、新たに6月の市議会で決定いただきました。



また高齢者や障害者が、安心して街を楽しみ、暮らしを楽しめる環境をつくるために、強力にバリアフリーを進めています。新年度は、牧落駅のエレベータ設置や、長年の課題だった市民会館（グリーンホール）のエレベータ設置にゴーサインを出しました！

公立病院の成功モデルを “箕面市立病院”で！

「市立病院は、暮らしの安心を支える重要拠点。どんなに市の財政が厳しくても、市立病院はキッチリ存在し続けなければならない!!」…そう語る倉田哲郎市長は「だからこそ厳しい姿勢で病院経営に臨むんだ」と言います。

これまでは“毎年9億円の赤字補填”という不安定な病院経営…ところが、新年度にはこの赤字を2億円にまで大幅圧縮。“市民に愛される安定経営の市立病院”をめざして、倉田哲郎市長の挑戦がスタートしています。

緑を守ろう！ 緑を育てよう！

新たな「山なみ景観規制」と 「(仮称)みどりファンド創設」の導入

箕面のまちの一番の魅力は、なんといっても「みどり」。みなさん、そう思いませんか？

〔強力なリーダーシップで2つの開発を中止へ〕

倉田哲郎市長は就任直後、すでに進行していた「新稲地区の墓地開発」と「新御堂筋突き当たり山麓での老人ホーム建設」に強く異を唱え、議会とも協力しながら、強力なリーダーシップで2つの開発計画をストップしました。（※新稲の墓地開発は昨年10月に開発者が正式に申請取り下げ。新御堂筋の老人ホームは今年5月に開発者が正式に申請取り下げ）

〔新たな規制の導入へ〕

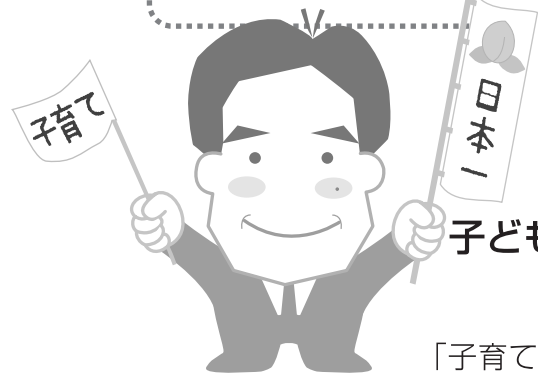
さらに、こうした山なみの緑・景観を阻害する開発が、今後、繰り返されないよう、みどり豊かな山すそエリアについて、新たに強力な開発規制の導入を準備中とのこと。安心して消えることのない山なみを眺め続けていられる…そんな箕面になることを期待します。



〔守るだけでなく、みどりを育てたい〕

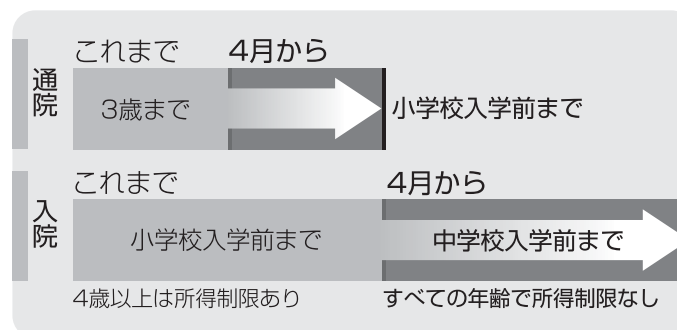
これまで、山間・山麓部には“山麓保全ファンド”がありました。これに加えて、新たに“街の中の緑”を育てるため、住宅地を彩る樹木や生け垣、地産地消のもととなる農地などを支援する「(仮称)みどりファンド」の創設準備がスタートしています。

子育てしやすさ 日本一へ



子どもの医療費助成を 大幅に拡大

「子育てしやすさ日本一」をめざす倉田哲郎市長は、今年の4月から、子どもの医療費助成の大幅拡大に踏み切りました。



通院、入院ともに1日あたり500円、3日以上受診した場合でも、1つの医療機関であれば月のご負担は1,000円まで。また、複数の医療機関を受診しても月のご負担は2,500円まででOK。いざというとき、保護者の皆さんは安心です！

さらに、生後4ヶ月までのすべての赤ちゃんを訪問する「赤ちゃん・子どもすこやか事業」の創設や、全中学校のすべての普通教室にエアコン設置など、子育て日本一をめざして数々の取り組みを行っています。

中学校にデリバリー給食

箕面市の中学校は“弁当持参”となっていますが、「作りたくても作る余裕がない…」そんな悩みも聞こえてきます。そんな保護者の方に朗報。今年の2学期から、中学校のデリバリーランチ(予約制のお弁当)導入の準備が進んでいるとのこと。しかも市内の企業などの協力による、とくに安全で栄養バランスのとれたお弁当です。いろんな方の力も借りて、財政支出を抑えつつも、新たな発想で次々とニーズに応えたい…そんな倉田哲郎市長の気持ちがカタチになっていきます。

困ったことは見逃さない！ すぐに実行！

本気でカラスを駆逐！ 「カラス対策チーム」が始動！

カラス被害が広がりを見せています。桜井の話とばかり思っていたら、最近はずうの近所でも…。倉田哲郎市長は、専門的な「動物対策チーム」を発足させ、「なにがなんでも一掃する!」と対策に乗り出しました。とくに重点地区では、生ごみ対策やトラップ(檻)による捕獲、巢の撤去などあらゆる手段を講じる構え。街で「動物対策チーム」というジャンパーを見かけたら、ぜひ応援を！ また東京都荒川区で先例のある《迷惑行為の防止条例》も検討しているとのこと。

箕面ならではの スローライフを

「農業サポーター」の募集が はじまりました！

“土イジリ”に興味がある方、農業やってみたい方、自然とふれあいたい方、みなさんで箕面の農家を応援しませんか？

大阪には珍しく、せっかく田んぼや畑のある“箕面”の風景。でも、農家は高齢化や後継者不足に悩み、農地は減少の一途をたどるマイナスの循環に陥っています。これを逆転させ、「農業」を成り立たせ、「地産地消」を進め、箕面らしいスローライフを謳歌する…。そんなビジョンを描いて、市は、農業に関心のある市民と農業者を仲介する「農業サポーター制度」をスタートしました。

眺めるだけでなく、実際に畑に入って、汗を流して“地産地消”してみませんか？ ぜひ、農業サポーターにご応募ください！